

## 令和2年度 練馬区国際交流・多文化共生事業推進連絡会 要点記録

### 1 開催日時

令和3年3月8日（月）から3月24日（水）まで （書面開催）

### 2 出席者

ボランティア日本語教室代表者等22名、地域振興課長、  
国際・都市交流課長

### 3 事務局

地域振興課

### 4 配布資料

- (1) 令和2年度多文化共生事業実施結果
- (2) コロナ禍における活動に係るアンケート

### 5 内容

各委員からアンケートにより寄せられた意見の要点は、つぎのとおり

#### ① コロナ禍における活動状況について

ボランティア日本語教室は、令和2年に全教室で活動を休止した。なお、一部教室は再開または再開予定である。

その他団体における教育活動は、オンラインを活用した授業を行っている。

#### ② 「新しい生活様式」に即した活動をする中での課題や対応方法

- ・ マスクおよびマウスシールドの課題
- ・ 人数制限を行うことで、学習者の受入れ待ちが発生
- ・ 生徒減で会費が入らず財政的に困難
- ・ 学習者の受入れおよび活動に伴うリスクへの不安
- ・ 感染症予防対策物品の必要性。会議室におけるパーティション整備
- ・ 学習者の孤独感または活動態度の変化
- ・ 活動再開時に学習数が減少することへの不安
- ・ 外国籍住民子弟の学びの場や問題点への懸念
- ・ 学校の役割の再認識
- ・ 通信環境の差により生じる教育の差

③ 今後の多文化共生の取組として必要と感じていること・意見

- ・ 学習の前提として、感染予防策の必要性を話し合うことが重要
- ・ 対面授業が必要
- ・ オンライン授業は対面と比し効果で劣るが、生徒との交流が深まる。
- ・ ボランティア団体ではオンライン対応が困難
- ・ オンライン教授法を勉強する機会が必要
- ・ オンライン授業実施に伴う経費等支援
- ・ 新型コロナウイルス感染症終息後においてもオンラインと対面の半分ずつが続くと推測。指導側のリモート技術が必要。フリーダウンロード教材活用により対面と同様の授業も可
- ・ ボランティア活動に伴う各種活動経費支援
- ・ 外国人住民に対する一層の日本語教室周知
- ・ 外国人区民を対象とした、数か国語による「情報案内サイト（新型コロナウイルス感染症、医療、生活情報、防災、外国語相談等）」が必要
- ・ 「多文化共生」には人との交流が重要。複数の交流の場の必要性
- ・ 留学生対応の充実

以上